



令和4年度 果樹情報 特別号
 ～ モモせん孔細菌病・モモハモグリガの防除対策 ～
 (令和5年3月30日)
 福島県農林水産部農業振興課



福島県病虫害防除所より3月28日付けで「令和4年度病虫害防除情報」が発表されました。
 モモせん孔細菌病の春型枝病斑及びモモハモグリガの越冬世代の誘殺は、ともに3月22日に初発生が確認されています。また、果樹研究所における「あかつき」の発芽は3月16日で平年より8日早まっています。

初期の薬剤散布は、菌密度や害虫発生の抑制に重要です。生育の進度に合わせて、開花前の適期に実施しましょう。

1 モモの生育状況

果樹研究所におけるもも「あかつき」の発芽は、3月16日で平年より8日早い状況です。仙台管区气象台発表の東北地方の1か月予報(令和5年3月23日発表)では、向こう1か月の平均気温は平年に比べ高い確率80%と予想されています。
 今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、「あかつき」の開花は、平年より10日早い4月3日頃と予測されています(令和5年3月28日現在)。

2 モモせん孔細菌病・モモハモグリガの発生状況

モモせん孔細菌病の春型枝病斑の初発生は、県北地方の「ゆうぞら」で3月22日に確認されました(図1)。

モモハモグリガの越冬世代の初発生は、果樹研究所のフェロモントラップ誘殺調査において、3月22日に確認されています。昨年秋期の発生状況(図2)と越冬量調査から、発生が多くなることが懸念されます。



春型枝病斑は、枝表面の黒ずみや付近の芽の生育不良等により確認できる

図1 モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生状況
 (令和5年3月24日撮影)
 (写真提供: 福島県病虫害防除所)



図2 モモハモグリガ被害葉
 (写真提供: 農業総合センター果樹研究所)

3 防除対策

仙台管区气象台発表の東北地方の1か月予報(令和5年3月23日発表)では、向こう1か月の降水量は平年並または多い確率がともに40%と予想されています。

初期の薬剤散布は、菌密度や害虫発生の抑制に重要なため、適期散布に努めましょう!

春型枝病斑を確実にせん除しましょう!
 園地を何度も見回り、枝病斑を見つけしだい、早急に除去しましょう。
薬剤散布は、開花前の適期に実施しましょう!

(1) モモせん孔細菌病

- 各地域の防除暦にしたがって、開花前に無機銅剤を必ず散布してください。
- 使用する薬剤は、使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。また、同一薬剤の連用は耐性菌出現のリスクが高まるので、薬剤はローテーションして防除を行ってください。
- 春型枝病斑は新梢葉や果実への伝染源となるため、園地内をよく観察し、生育不良等の疑わしい枝も含めて徹底してせん除しましょう。
- 春型枝病斑の発生は7月頃まで長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施しましょう。
- 春型枝病斑をせん除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部まで切り戻しましょう（図3）。
- 樹冠上部の発病枝の取り残しは直下の被害拡大につながるため、樹冠上部の発生を見逃さないようにしましょう。
- 発病葉や発病果実が今後見つかった場合には、枝病斑とともに除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

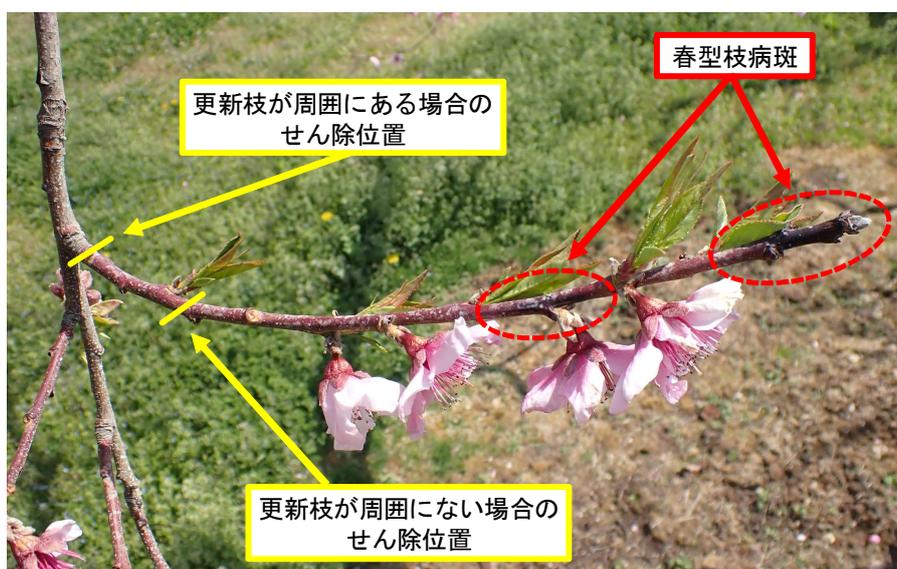


図3 春型枝病斑のせん除位置（写真提供：農業総合センター果樹研究所）

(2) モモハモグリガ

果樹研究所の予測によると、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、第1世代の防除適期は4月16日頃と予測されています（表1）。

各地域の防除暦に従い、薬剤散布を実施してください。

なお、薬剤を散布する際は、訪花昆虫への影響に留意して行いましょう。

表1 果樹研究所におけるモモハモグリガの防除時期の推定(令和5年3月25日現在)

今後の気温予測	越冬世代誘殺盛期	第1世代防除適期
2℃高い	4月8日	4月16日
平年並	4月10日	4月19日
2℃低い	4月16日	4月26日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>